

平成28年度第1回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成28年度第1回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成28年5月17日（火）午後1時30分～午後3時20分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／山中 長壽／手塚 正子／
須田由美子／中山 洋美／金子 朋子／齊木 久壽
事務局 花輪図書館長／長谷川 誠・小野 まどか・
相吉 悠（総務担当）／進藤 由美子（ながさか図書館）／
高野 裕子（金田一春彦記念図書館）
- (5) 議題： (1) 平成28年度事業計画と予算について
(2) 子ども読書の杜プランの進捗状況について
(3) 八ヶ岳定住自立圏内図書館協議会委員懇談会について
(4) その他

報告： (1) 本の杜への招待状事業について
(2) 金田一春彦記念図書館アーカイブ プレ公開記念講演会について
(3) 各図書館からの近況報告について
(4) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：3人
- (9) 審議内容

議 題

1) 平成28年度事業計画と予算について

*事務局より28年度事業計画について、説明

- ・全体事業としては、昨年度までに引き続き「ブックスタート事業」、「セカンドブック事業」、「土曜ことば楽」事業、「大人のための朗読会やまびこ」を予定している。
- ・新規事業としてセカンドブック時に図書館への招待状を渡し図書館での読み聞かせに参加していただき絵本をプレゼントする「本の杜への招待状事業」を行っていく。
- ・やまね便りについては、今年度から全戸配布をやめ、図書館や公共施設、学校

などへの配布に変更する。

- ・第17回金田一春彦ことばの学校を9月、子ども図書館まつりを11月に、利用者懇談会を12月、ボランティア研修会を2月に予定している。
- ・県立図書館では今年度、県立図書館で借りた本を県内の市町村立図書館で返却をできる広域返却サービスを試行的に行っており、北杜市図書館も試行館に選ばれており、10月まで広域返却を行っていく。
- ・各館の事業については、4月の子ども読書週間、10月の読書週間を中心にイベントを予定している。各館では本の世界へのきっかけを作るために、地域委員会や教育センターなどの関係部署とも連携し、ボランティアの方々にも協力をいただきながら事業を進めていく予定である。

委員：教育センターとの連携については、教育センターによって図書館との共同のイベントを行っているところと行っていないところがあるようだが、どうしてか。

事務局：教育センターの職員も少なくなり、事業が縮小せざるを得ない状況にあるなかで、生涯学習課としては市内の関係部署と協力をし共催というかたちで事業を残していきたいというはなしはある。そのうえで、各現場ごとに協議をし、お互いに協力できる部分はあるか共催というかたちで事業を行えるか検討しながら事業を組んでいる。

委員：昨年まで8月にたかね図書館と金田一春彦記念図書館で行ってきた終戦に関するイベントが今年度両館ともなくなってしまう。

事務局：金田一図書館では、終戦特集のイベントについては今年度開催しないが、展示については今年度も8月に行う予定である。
たかね図書館については再度確認する。

委員：各図書館独自で事業の計画を立てている部分もあると思うが、一つのイベントを中止するときはその時期にイベントがない他の図書館に回すような仕組みというか、全体としての調整をすることも必要なのではないか。

委員：あるイベントに行きたくても遠い図書館だとなかなか足を運べないことも多い。同じイベントをあるときには近くの図書館で行ってもらえると参加したいという方も増えるのではないか。

委員：特に戦争のことというのは語り継いでいなくては薄れていってしまう。運営会議などで年間行事について調整をしてもらいたい。

委員：すたま図書館で行っている「ぬいぐるみのお泊り会」とはどんな事業か。

事務局：子どもたちが大事にしているぬいぐるみを図書館で一日預かり、ぬいぐるみが図書館で本を読んでいる様子などを写真に撮って、後日その写真とと

もにぬいぐるみが選んだおススメの一冊を貸し出しすることで、本に親しむきっかけをつくる事業である。

委員：明野図書館で2月に開催するブックカフェはどのような事業か。明野図書館ファンクラブの会員だけで行っているのか。

事務局：普通の読書会とは違い、自分の読んだ本でよかったものを持ち寄って自由におすすめし合うものである。事業はファンクラブの会員だけでなく、どなたでも参加できる。

委員：むかわ図書館活性化会議は存続していくのか。

事務局：代表の方が代わり、事業は小規模にしていく予定だが、今後も存続していくことになった。

委員：むかわ図書館で予定しているパパ's おはなし会は昨年、一昨年小淵沢図書館で行っていたイベントが持ち回りでむかわで行うことになったということか。

事務局：パパの読み聞かせグループが正式に立ち上がったわけではないのだが、小淵沢図書館のイベントに出ていただいたお父さんたちにむかわでも出てもらいたいという話があり2月に予定している。

*事務局より28年度予算について、説明

- ・28年度の図書館予算の総額は、129,964千円。
- ・金田一図書館も開館から20年近く経ち施設の老朽化に伴い雨漏りなどの不具合が出てきている。この改修に向けて今年度は改修工事の設計業務を行い、29年度に改修工事を行う予定である。
- ・公共施設内の安全対策について問われるなかで、今年度、金田一図書館とたかね図書館について、防犯カメラの設置を行う。金田一図書館については来年度の改修工事に合わせて行うことも検討する。
- ・金田一春彦記念図書館においては、児童館内にある書架を一般用コーナーに移設する工事を行う。
- ・臨時職員、アルバイトの人件費が361千円の減額になっている。これは金田一図書館内の子ども図書館部分を一般書架に移すことに伴い、子ども図書館に図書館職員が常駐する必要がなくなることによる減額である。
- ・新聞雑誌購入費215千円の減額、図書購入費580千円の減額となっている。このなかで効率的に資料の購入をしていきたい。

委員：図書購入費が毎年削減されている。このまま5%ずつ減っていったいのだろうかという思いを持っている。本年3月に行った利用者懇談会で講師として来られていた大月市立図書館の仁科館長が、大月市立図書館では雑

誌のスポンサー制度を行っている事例を報告して下さった。北杜市でも、こうした制度などを導入していくことは難しいのか。個人だけでなく、企業からの寄附なども受けられないのか。

事務局：雑誌自体を寄贈していただくのか、雑誌代を寄附していただくのかによっても違うが、寄附をしていただくためには新たに条例を制定するなどの手続きは必要である。

委員：利用者がどの館にどの新聞やどの雑誌が入っているかが分かるようになっているのか。

事務局：各図書館では一覧を持っているので、利用者からの問い合わせがあれば、お見せすることはできるようになっている。

委員：企業からの寄附については、その企業の商業的側面が強く出過ぎないように気をつけてもらいたい。

委員：やみくもに何でも寄贈をしてもらうのではなく、利用率の高いものを中心に、ある程度図書館から指定したものを寄贈してもらうのがいいのではないのか。

事務局：お金の寄附がいいのか、雑誌自体の寄贈がいいのか、今後事務局として検討していきたい。

また、「ふるさと納税」の制度が企業にも適用されることになった。これは、各自治体がある事業を計画し、その計画にふるさと納税という形で協力していただく企業を募っていくものである。雑誌のスポンサーについてもこの制度が使えないか検討をしていきたい。

委員：学校では、各新聞社からの新聞ニュースなどを寄贈していただいている。図書館でもこうした寄贈をもっと受けていくといいと思う。

委員：図書館でこうした雑誌の寄贈を必要としているということをもっと積極的にPRし訴えていく必要があるのではないのか。図書館は全体的にPR不足だと思う。

事務局：PRには積極的に行っていく。

委員：予算の5%ずつの削減は今後もずっと続いていくのか。

事務局：これまで市をあげて財政健全化に取り組み、少しずつ健全化してきているところであるが、今後地方交付金が今後段階的に縮小されていくことになっており、今後もしばらくは予算を削減していかないといけない。

委員：全体として削減しなくてはいけないのは分かるが、どの部署も一律に削減するというやり方でいいのか。「人と自然と文化が躍動する 環境創造都市」を謳う北杜市として、図書館の根幹に関わる図書費を削減してはいけ

ないのではないか。

今北杜市に移住してきた方々に話を聞くと、8つの図書館があるということを感じて市の魅力の一つとして感じて移住されてきたという方も多い。

委員：市として今子育てにこれだけ力を入れようとしているときなので、施策として図書館の充実に取り組んでいけるように頑張ってもらいたい。また、この図書館協議会で話したことが、図書館の施策に活かされていないように感じてしまう。

事務局：新規事業を行うときなどは、協議会に諮り意見をいただきながらすすめている。これが財政当局との折衝でも大きな強みになっている。われわれ担当だけで決めているのではなく、市民から選ばれた委員さんからの意見もいただいているということはとても重要なことと考えており、実際に事業を進めていく力になっている。

委員：図書購入費については是非これ以上減らさないようにしてもらいたい

事務局：一律で減額していくというのは、あくまでも課ないしは部単位で減額という意味であって、図書費も5%、雑誌も5%、他も5%減額しないといけないう意味ではない。事務局としてもできる限り図書費は削減したくないと思っているが、図書館の予算は、人件費と施設の維持管理費が大部分を占めており、これらは削減することが難しい。そのほかの部分で削減していこうとするとどうしても図書費にも手をつけなければいけないというのが現状である。

委員：新聞の寄贈も受けているのか

事務局：支所でとっている新聞を翌日図書館にもらっているところもある。

2) 子ども読書の杜プランの進捗状況について

*事務局よりプランの進捗状況について説明

- ・児童館・放課後児童クラブ・つどいの広場では読み聞かせやおはなし会を実施している施設数は変わっていないが、図書館の団体貸出を利用している施設や図書館との共催によるイベントはわずかだが増加している。
- ・小中学校では26年度では朝読をしていない学校があったが、27年度には全ての学校が朝読を実施しており、朝読の回数についても増やしている学校もある
- ・おはなし会やブックトークを実施している学校が増加している一方、おはなし会の回数については減らしている学校も見受けられる。
- ・家読の推進を行っている学校数については、26年度と同じであった。
- ・保育園では図書館によるおはなし会を30回行っている。異年齢交流による読

み聞かせを実施しているのは2施設のみで26年度から変わっていない。

- ・ボランティア・保護者による読み聞かせを行っている施設は10施設から9施設に減少している。
- ・図書館の団体貸出を利用しているのは5施設のみで26年度から変わっていない。
- ・市図書館における児童書の購入については、全体としてわずかに減少しているが、絵本の選書については通常の選書とは別で行い、良書の購入を心がけている。
- ・定例の読み聞かせについては、回数・参加人数ともに増加している。
- ・3月にはボランティア研修を行った。

委員：小さいときから本を読む習慣をつけておくことがとても重要。子ども読書の杜プランもその視点に立ってつくられているものであり、市として計画を出しているものなのであるから、ブックスタートや本の杜への招待状事業など子どもの読書推進に関わる事業については予算措置を今後もしっかりとやってもらいたい。

委員：小中学校の進捗状況と比べると、保育園での進捗状況が進んでいないように見受けられる。

事務局：保育園の団体貸出が15施設中5施設しか利用していないことから、各館とも相談しながら、各保育園に団体利用をすすめていくところから、図書館の利用、読書の推進を図っていきたい。

委員：幼児の場合は、図書館を利用するにも子どもだけでは来られないので、親への働きかけ、親への利用促進が大事ではないか。

委員：子育て世代の親からすれば、静かにしていなくてはいかぬとか走ってはいけないという思いも強く、図書館は利用しづらい面があるのではないか。もっと気軽に寄れる図書館になると利用してもらえるのではないか。

委員：図書館を利用する方々にも図書館はコミュニティの場であるということを伝え、理解してもらえるような工夫が必要ではないか。お互いに共存できる場にしていってもらいたい。

委員：金田一図書館では、6月から子ども図書館が一般書架に移ることになっていると思うが、これまで静かな図書館というイメージを持っている利用者からすれば、だいぶ館内のイメージが変わってしまうのではと思うが、図書館としてはどのような対処を考えているのか。

事務局：新たに作る子ども図書館のコーナーは、床のカーペットの色を変えるなどして、一般のコーナーとの区別がつくようにはする予定である。そのうえで、

どれくらいのうるささになるか、どういう苦情が寄せられるかは分からない共存できるようにしていきたい。

委員：読書は知性、情感の源になるのはもちろん、生涯にわたる生きがいになるものだと思う。子どもたちの読書のきっかけをつくるために各図書館で工夫して楽しいイベントを企画してくれていることはよく分かる。本質的には読書自体の楽しさをいかに伝えていくかということが大事だと思う。

委員：障がいのあるお子さんへの読書推進については、これまで取り組みができていないという報告になっているが、これからは職員やボランティアが手話を学べるような機会を作っていくことも必要ではないか。

事務局：これまで障害のある子どもへの読書推進については取り組みができてこなかった。先日、赤十字のボランティアで、視覚障害のある子ども向けの絵本をつくっているグループの方から、図書館でも視覚障がい者向けの絵本をいれないかという提案をいただいた。数多く購入することは難しいが、何冊か購入をして各館を回すようなことをスタートしていきたい。

3) 八ヶ岳定住自立圏内図書館協議会委員懇談会について

- ・昨年、富士見町、原村と北杜市の3市町村で八ヶ岳定住自立圏が結ばれ、図書館間においても相互利用の促進が謳われ、相互貸借において利用者に負担していただいていた送料を図書館側が負担することとした。
- ・4月の月末休館日に北杜市図書館職員全員で、富士見町立図書館、原村図書館を見学してきた。
- ・まずは職員をはじめとした人間関係をつくる必要であり、機会があれば協議会委員方の交流の場も持てればと思っている。

委員：富士見、原村の図書館に北杜市図書館のイベントのチラシを送ったり、相手からも送られてきたりしているのか。

事務局：大きなイベントについてはこちらから送付するようにしているが、お互い日常的に送付しあっているところまではしていない。

委員：そうしたすぐできる地道な交流からは是非行っていってもらいたい。

報告

1) 本の杜への招待状事業について

*今年度から新規事業で行っている「本の杜への招待状事業」について報告。

- ・4月の2歳児検診時にはじめて招待状をお配りし、この事業について対象の親御さんに話しをした。

- ・27組の親子に招待状をお配りしたが、現在のところ図書館に来て絵本の引き換えをされたのは2組のみ。
- ・引き換えに来られた方はそこで新たにカードを作っていただき、図書館の利用につながっている部分の出ている。

委員：まだ4月からはじまったばかりの事業なので今後の様子や推移を見守っていきたい。

2) 金田一春彦記念図書館アーカイブ プレ公開記念講演会について

*昨年度から金田一先生と平山先生の貴重な資料をデジタル化する事業を行っており、28年度は資料のデジタル化とインターネットでの公開に向けたシステムの構築を行い、29年度には本公開の予定である。

- ・29年度の本公開に向けて、28年夏に一部の資料を先行公開することになり、これを記念して講演会を開催する。
- ・日時は8月7日に金田一図書館で行う。講師は両先生の教え子である大分大学名誉教授の日高貢一郎先生をお招きし、本事業の意義について講演いただく予定である。
- ・委員の皆様にも是非ご参加いただきたい。

3) 各図書館の近況報告について

*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明

委員：すたま森の図書館で行われている「農の学校」がとても人気があると聞いた。

事務局：講師の話しも分かりやすく、4月に行われた会には当日の飛び込みも含め、50人の方が参加された。

委員：金田一図書館で7月に行われる読書会は、浅川巧兄弟資料館と共催でチョン・ゴルソンさんの『海峡のエリア』をやることになっているが経緯は。

事務局：浅川巧兄弟資料館が主催している第13回清里銀河塾のプログラムの一環で、6月26日に歌手で作家としても活躍するチョンゴルソンさんのオペラコンサートを開催することになっており、これにあわせチョン・ゴルソンさんの作品『海峡のエリア』を読書会のテーマ本に決めた。

委員：明野図書館で開催する「音楽と朗読のつどい」に出演される田窪さんが、かつて富士町立図書館が閉館した午後7時から図書館のホールでコンサ-

トをしていたことがあった。北杜市図書館でもホールコンサートなどを企画してもいいのかなと感じた。

以上